

Sustainable Society Study (SSS) 1st Year High School

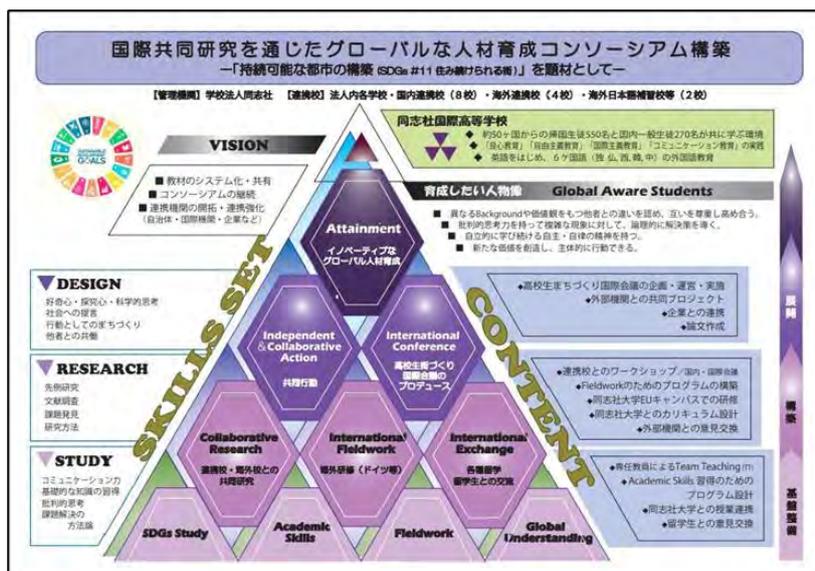


2023年4月10日 SSS（高校1年生）授業「Introduction はじめに」

資料：ワークシート 1-1

文部科学省の委託事業である WWL(World Wide Learning) コンソーシアム構築支援事業の拠点校となり4年目を迎えました。同志社国際高等学校が拠点校となり、同志社大学等と協働して新しいカリキュラム開発を行い、国内外の連携校とともに取り組んでいきます。プログラムのテーマはSGHで取り組んできた「環境問題」から発展させ、環境に配慮した理想の街、住み続けたい街の探求をテーマに「まちづくり」としました。今日は、高校1年生の必修科目「SSS(Sustainable Society Study)」初回の講座です。SSSは各学期に数回開講します。この講座では未来を考える指標として「SDGs」を用い、「SDGs」の視点をもって街のあるべき姿を考えていきたいと思えます。そして2年生「SSR(Sustainable Society Research)」、3年生「SSD(Sustainable Society Design)」では選択科目として展開され、興味を持った生徒は3年間を通じて共通したテーマで学びを深めていくことができます。

●同志社国際高等学校 WWL 構想図



●SSSの目指すもの（坂下教諭より）

既存の学習

すでに見出された事実や法則性を学ぶ



SSSでの学習

既存の学習を進めながら、さまざまな知識を使いながら俯瞰的な視野にたって、答えのない問題について考える

解けないということではなく、ひとつの答えがないということです。解決は容易ではないけれど、皆さんからよいアイデアを生み出せる可能性がある、そして何より過去の取り組みでも検討を重ねるうちに多くの気づきがありました。

局所的な解決ではなく、広い視野や発想を重要視
それぞれのバックグラウンドや経験をいかし、考え、議論
成人年齢にも近づいた皆さんが、社会課題に関心をもち、社会を運営する立場で選挙
政策にも耳を傾けてみたくなる、そんな風になってくれたら嬉しいです。

●授業で取り組むテーマ

街

住む場所というのは誰にとっても関わりがあり、またここには、環境、交通、教育、産業などさまざまな要素が含まれています。

住んでいる街、住んだことのある街、訪れた街、その中で「この街はいい街だな」と思ったことがあると思います。より住みやすい、持続可能な街になるためにどうすればよいか考えていこうと思っています。

【SDGsについて（帖佐教諭より）】

Sustainable Development Goals

「誰一人取り残さない」持続可能な社会を構築するため、国際連合で SDGs が採択され、2030 年まで達成すべき目標が定

められました。SDGs には 17 の目標と 169 のターゲットが定められており、地球上に暮らす全ての人に課された目標です。

【SDGs の歴史】

- 1945 年 終戦。その後冷戦時代へ、冷戦が終わって 1 つの世界を目指そうとしました。
- 2000 年 国際連合ミレニアムサミットにおいて国連ミレニアム宣言が採択され、翌年にミレニアム開発目標(MDGs)が策定されました。世界が、世界の課題（主に開発途上国の問題）を解決するため、2015 年までの期限付き、具体的な数値目標、達成度の確認を含む共通の目標に向かって協力して動き出します。
- 2015 年 MDGs 開発アジェンダの節目の年に開催された国際連合持続可能な開発サミットにおいて、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」を全会一致で採択。MDGs は期限を定めた測定可能な 8 つの目標を掲げた工程表に具体化され、このかつてない取り組みが計り知れない成果をもたらした一方で、最も脆弱な人びとが置き去りにされていることも確認されました。そこで、人間、地球及び繁栄のための行動計画として、宣言および目標をかかげました。ここでは誰ひとり取り残さない世界を作るという共通の目標が設定されました。この目標が、ミレニアム開発目標(MDGs)の後継であり、17 の目標(Goals)と 169 の Target からなる持続可能な開発目標(SDGs)です。そこにはいくつもの社会問題が挙げられています。MDGs との大きな違いは、先進国だけでなく開発途上国も一丸となり目標に向かい行動すること。

【SDGsの17の目標と169のターゲット】



この17の目標は相互に関連しあっているといわれていて、私たちはこの中の目標11「包括的で安全かつレジリエントで持続可能な都市および人間環境を実現する」、つまり皆が暮らしやすい持続可能なまちについて考えていきます。

【SDGs#11「住み続けられるまちづくりを」】

私たちの生活にも密接にかかわってくるのが目標11です。まちづくりというと、行政のすることという印象をもっているかもしれませんが、高校生にもできるまちづくりはあります。地球の人口は77億人、これから人類はどうなるのか、自分たちが生きていく世界が豊かであった方がいいに決まっています。皆で考えましょう！そもそも学ぶことはそのためにです。

●この授業で身に着けてほしい「アカデミックスキルズ」

問題の分析 analysis

調査 research

考える・批判的な思考 critical thinking

話し合う・相談する discussion

まとめる summarization

発表する presentation, report

直感的な思い付きやひらめきだけでは解決につながりません。アカデミックスキルを使い、論理的な思考を行っていきます。今後目の当たりにするどのような問題にも役立つ解決策の導き方です。この講座では、こうして全員でホールにて、各教室に分かれてのグループワーク等、そして学校の外に出てフィールドワークなど、様々な授業形態を予定しています。それぞれの場面で、それぞれが果たせる役割を思う存分発揮して、どんどん前向きにクラスに参加して欲しいと思います。

●多様な科目の教員によるチームティーチング

グローバル化が進み、多様な社会における問題解決にあたって答えは1つではありません。この講座でも、多様な角度から問題にアプローチします。そこで、さまざまな科目の教員が関わり1つの講座を受け持つというスタイルを取っていることも大きな特徴です。この講座を担当する教員の①住みたいまちと②その理由について話してもらいました。



A 組担当 坂下淳一教諭

- ① 京都に住み続けたい
- ② 人口、都会田舎、サイズ、などの
ほどよさ
海外ではアムステルダムが運河の
よい雰囲気と自転車の利便性魅力

B 組担当 朴元炯怜教諭

- ① 日本/新宿
- ② 住みよさ
好きな街は人それぞれだけれど、
住んでいる人たちがこんな風にし
たいとイメージが持てるといい

C 組担当 谷口健太教諭

- ① 宮崎、タイ
- ② どちらも温暖な気候、趣味のゴル
フが一年中できる
初担当でこの講座を通して自分の
街への視点がどう変わるか楽しみ

D 組担当 北川浩二教諭

- ① シアトル
- ② 芸術、カフェ文化、企業が元気
生まれも育ちも京田辺で定年は
SDGs 達成の 2030 年、講座を通し
て受け止める側から関わる側へ

E 組担当 吉田恵都子教諭

- ① 別府
- ② 温泉のあるまち
海外では、料理好きなので、美味し
いものが集まるポールボキューズ
の拠点でもあるリヨン

F 組担当 帖佐香織教諭

- ① パリ
- ② 個人商店、公園、歩く楽しさ
日本では、オープンカフェやパン
やさんが点在し、海も山も近い芦
屋の武庫川沿いの雰囲気が好き

この講座を引き続き担当する教員も、今年から始めて担当する教員も、この講座を通して生徒たちと一緒に学ぶことを楽しみにしています。

これから一年、まちづくりを楽しく学んでいきましょう！

2023年5月26日 SSS（高校1年生）授業「まちづくりとは」

資料：ワークシート 1-2

第2回目の講座では、いよいよ私たちの探求のテーマである「まちづくり」について学んでいきます。まちづくりとは何かを考え、その中でもまちづくりを考えるにあたってさまざまな視点があることについて知ることはとても重要だと考えます。

●まちづくりとは何か？

- ・身近な居住環境を改善すること
 - ・地域の魅力や活力を高める継続的な活動のこと
- とはいえ、良いまちづくりの答えは1つではありません。交通や施設、防災計画などのハード面以外にも、人々の関わり、サービスなどのソフト面も必要な要素です。



いろいろなまちづくりの観点
福祉、復興、防災、景観、子育て、ウォーカーブル、自転車で動く、など

そしてまちづくりには、よりよい場所であった方がよいという共通の意識のもと、さまざまな立場の人がかかわっています。

SDGsの目標#11「住み続けられるまちづくりを」のターゲット

- 11-1 2030年までに、すべての人が、住むのに十分で安全な家に、安い値段で住むことができ、基本的なサービスが使えるようにし、都市の貧しい人びとが住む地域（スラム）の状況をよくする。
- 11-2 2030年までに、女性や子ども、障害のある人、お年寄りなど、弱い立場にある人びとが必要としていることを特によく考え、公共の交通手段を広げるなどして、すべての人が、安い値段で、安全に、持続可能な交通手段が使えるようにする。
- 11-3 2030年までに、だれも取り残さない持続可能なまちづくりをすすめる。すべての国で、だれもが参加できる形で持続可能なまちづくりを計画し実行できるような力を高める。
- 11-4 世界の文化遺産や自然遺産を保護し、保っていくための努力を強化する。
- 11-5 2030年までに、貧しい人びとや、特に弱い立場にある人びとを守ることを考えて、水害などの災害によって命を失う人や被害を受ける人の数を大きく減らす。世界の国内総生産（GDP）に対して災害が直接もたらす経済的な損害を大きく減らす。
- 11-6 2030年までに、大気の本質やごみの処理などに特に注意をはらうなどして、都市に住む人（一人当たり）が環境に与える影響を減らす。
- 11-7 2030年までに、特に女性や子ども、お年寄りや障がいのある人などをふくめて、だれもが、安全で使いやすい緑地や公共の場所が使えるようにする。

まちづくりとは、街で豊かな生活をするうえで必要な取り組みを全て含んでいる言葉です。

●まちづくりについてそれぞれの視点から

S S S 講座はチームティーチングで多教科の教員がそれぞれの得意分野からの視点でまちづくりを考えています。まちづくりに関してどのようなことに興味を持っているか、取り上げた書籍やイベントを通して1人1人話を聞いてみましょう。



「北アルプス国際芸術祭」吉田教諭

仕事を辞めたら住んでみたいなという場所の1つが長野県です。持続可能な地域づくりを目指し3年に1度開催される国際芸術祭では、北アルプスの大自然を背景にアート作品が展示され、感動しました。この地域の魅力を存分に楽しむことができ、来場者の半数を超える人が県外から。その結果、大きな地域への経済波及効果も及ぼしています。2024年に開催されますので、ぜひ訪ねてみてください。

『「助けて」といえる国へ 著：奥田知志、茂木健一郎』 朴元教諭

宗教に何かを求める世の中ではなく、現在の地域の人々とのつながりの大切さに気付かされます。この書籍では、NPO法人「北九州ホームレス支援機構」での活動を通して見つめなおす中、「強い人が弱い人を助ける」ではなく「弱い人同士が共に生きる」という視点に日々の場面でも考えるきっかけを沢山もらいました。他者に目を向けるというまちづくりをソフト面から考える一冊でもあります。

『フランスの地方都市にはなぜシャッター通りがないのか

著：ヴァンソン藤井由実』 帖佐教諭

私も訪れたフランスのストラスブールは地方都市ですが活気があり街並みも素敵です。この書籍では、トラムや街の建物が大きく関わり、「豊かな生活」の考え方が実践されていることに気が付きます。まちづくりのダイナミズムの軸として交通を位置づけ、さまざまな政策について論じられていて参考になります。



『神山プロジェクト 未来の働き方を実験する 著：篠原 匡』 吉田教諭

徳島の神山町は、電車も通らない山中の集落で人口は減り続け存続も危うい消滅都市でした。それが現在は9社のベンチャー企業のオフィスを持ち、移住希望者が増加し続けています。一般的にはPCで仕事をする時、さあ山に行こうとは思いませんよね。どのような仕掛けがあったのか興味深くぜひ一度行って欲しい場所です。



「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭」北川教諭

京都市ではいろいろなことが企画されています。このイベントも、普段は立ち入れない建物や、何気ない商店街での意外性のある展示など、街を興味深く探索しながらアートもとても新鮮な気持ちで堪能できるおもしろい企画でした。気取らずアートに親しめ、また社会問題をテーマにした写真も多く、来場者は例年100万人を越える人気です。地元を巻き込んで人を呼ぶという1つの良い例だと思いました。



『シビックプライドー都市のコミュニケーションをデザインする 著：武田重昭 他』 坂下教諭

さまざまな都市の街の取り組みを紹介。アムステルダムでは、「I amsterdam」というキャッチコピーで、多様性のあるカナルシティでありその人々がアムステルダムをつくるという姿勢を示し、「街を誇りに思う」気持ち、すなわちシビックプライドを高揚させています。共著の1人である武田先生には、次回講演に来ていただきます。

6人の教員も「まちづくり」に対しての視点はさまざまです。そしてまちづくりは、さまざまな視点から取り組まれていることもわかりました。

●大阪公立大学 准教授 武田重昭先生講演について

実際に第一線でまちづくりに関わる専門的な知見を持つ方を講師にお招きする予定です。

大阪公立大学 生命環境科学研究科 緑地環境科学分野

武田 重昭先生の研究内容について

住宅団地やニュータウン等の計画的に整備された集住環境におけるオープンスペースをはじめとする都市の緑地空間を対象として、その空間形態とそこでの生活行動や運営の仕組みとの関係性を分析し、保全・継承すべき緑地環境の特質を明らかにするとともに社会状況の変化に対応した活用の方法や生活者の新しい関わり方によるマネジメント手法について研究を行っています。 (大阪公立大学ホームページより)

人生と都市を魅力的にする「パブリックライフ」について研究しています。UR 都市機構、兵庫県立人と自然の博物館を経て、現職。共著書に『シビックプライド』『いま、都市をつくる仕事』『都市を変える水辺アクション』ほか。共訳書に『パブリックライフ学入門』 (武田先生の Twitter アカウントより)

自分だけが心地よく魅力を感じているのではなく、街全体が魅力的、そこに住む皆が心地よく生活できること、それがパブリックライフです。武田先生のご研究の中にはまちづくりに関するこういったワクワクする Keyword が登場します。

オープンスペース；開かれた、誰でも使うことのできる空間

マネージメント手法；運営の方法

パブリックライフ；公共の生活、プライベートライフの対概念

シビックプライド；市民としての誇り

武田先生に講演にきていただき、ぜひ街や都市についての、新しい視点について、学んでもらいたいと考えています。武田先生が共著者でもある次に紹介する本を読んでもらうと「魅力的な都市とはどのような都市か？」についての考察を読み取ることができます。

★魅力的な都市とはどのような都市か

問い：魅力的なまちとはどのようなまち？住みやすいまちとは違う？

『シビックプライド 都市のコミュニケーションをデザインする』
(宣伝会議、2008年)

例えばヨーロッパは、小さな都市もそれぞれ特色があり、また趣があります。住民が関心を持って関わっていて、まちに愛着を持っています。この著書の中では、そのプロセスに注目し、都市の再生政策を進める上で市民の街づくりに関するコミュニケーションがとても重要なこと、そしてそれがあって初めてより多くの市民の共感のもとに計画が進み、人々の都市に対する愛着が生まれることについて解説されています。



★講演をきくにあって

最後に、貴重な講演をきくにあって気を付けることについて話しました。講師の方は講演のために準備をされて来られます。せっかくの機会に、ここでしかできない質問、この先生にしか聞けない質問をしましょう。きちんと理解したうえでの質問、聞かれた側がどう受け取るかという想像力を働かせることが必要です。

本日の課題

武田先生の研究の中で、興味を持った内容または質問したい内容をグーグルフォームに記入してください。武田先生にも事前に共有しますので、先生の講演に組み込んでもらえるかもしれません。

先生の書籍、また紹介するリンクを参照してください。

<https://sotonoba.place/sotonobaradio11> ソトノバラジオ

https://book.gakugei-pub.co.jp/campaign/covid-19_takeda/ コロナ関連特別寄稿

https://yumenavi.info/lecture_sp.aspx?GNKCD=g009563&OraSeq=44&ProId=WNA002_Sp&SerKbn=Z&SeArchMod=2&Page=1&Keyword=%E6%99%AF%E8%A6%B3 夢ナビ 風景をデザインする

<https://citylabtokyo.jp/2020/09/18/200920-eventreport-aiba-takeda/> City Lab Tokyo

2023年6月9日 SSS（高校1年生）授業「武田重昭先生の講演、街の魅力とは」およびパネルディスカッション

資料：ワークシート 1-3



第3回目の講座では、大阪公立大学の武田重昭先生をお招きして講義をしていただき、そして本校の生徒たちとパネルディスカッションをさせていただくという大変貴重な時間を持ちました。武田先生は緑地計画学（Landscape Architecture）を専門に研究され、多くのまちづくりの実例を通してシビックプライドの構築について書籍や多くの講演等で発信を続けておられます。本校にお越しいただくのは3年目となりましたが、

今回も生徒たちの質問に事前に目を通していただき、講演のご準備をしてくださいました。

● 武田重昭先生の講演 「持続可能なまちづくりについて」

講演の中で武田先生は次のような問いかけについて話してくださいました。

- ◎ 理想のまちってどんなまちですか？
- ◎ パブリックライフで私たちの暮らしは豊かになりますか？
- ◎ なぜシビックプライドが必要なのですか？
- ◎ 多様な価値観をどうやってまちに活かすことができますか？



これらの問いかけに対する先生のお話の中で印象に残ったことをご紹介します：

☆ “パブリックライフを育むのは“人”。

パブリックライフとは、公共空間で他者と直接的・間接的にかかわりを持ちながら過ごす社会的な生活のことを言います。川が流れる美しい自然環境に Wifi を設置してリモートワークができるようにした徳島県神山町の実例があります。人口が減少している集落に人の暮らしをもってくることで、そのまちを変えていくことができます。

☆ “10,000 人の 1 回より 100 人の 100 回を！”

賑わいや盛り上がりを求めて大規模なイベントを 1 回だけ開催するよりも、小規模なイベントを、回数を増やすことで日常的な出来事とし、出会いのきっかけを増やすことでまちはより魅力的となります。昨日より今日、今日より明日が少しずつよくなるといったことがずっと続くまちのほうが、最終的にはいいまちになると考えられます。

☆“まちをつくるのは、市民のまちに対する誇りや愛着！”

現在の大阪城は市民の寄付によって再建されたものです。また市立吹田市サッカースタジアムは市民や企業からの寄付金などで建設されています。自分たちでこのまちを良くするんだ、という自負心や気概が大切であり、それによってまちに対する誇りや愛着、シビックプライドが生まれます。この誇りや愛着こそがまちの魅力の根幹であり、まちの原動力、そして持続可能性に必要なものであるといえます。

☆“まちの魅力となり持続可能なまちをつくるのはあなたです！”

誰かにつくってもらうのではなく、自分たちがつくることで、まちのことをもっと好きに、もっと身近に、もっと自分のこととして、感じられるようになります。

〈講演を聴き終えて〉

武田先生の講演を聴き、魅力的で持続可能なまちをつくるのは私たちひとりひとりであるという意識が高められました。また生徒からの質問にも丁寧にお答えいただき、学生の私たちがどのようにまちづくりに関わることができるか、数々のヒントを得ることができました。コロナ禍で大きく社会が変化した今、先生の研究に基づく考え方は私たちが豊かな暮らしを送るための大切な気付きとなり、これからのまちづくりに向けて私たちが大きく一歩を踏み出すきっかけとなったのではないのでしょうか。

● パネルディスカッション



武田先生の講演の後、生徒たちがパネラーとなり、生徒から出されたテーマについてパネルディスカッションを行いました。生徒たちはまちづくりに対する考えや意見を活発に交換し、武田先生からも貴重な意見を伺うことができました。

ここではディスカッション内容の一部をご紹介します。

★テーマ1 世代や求めるものによって、どのような街を魅力的な都市とするかが変化してくると思うのですが、都市再生策を行う際、そのような住民の異なる欲求をどのように調整しているのでしょうか。

パネラー①：

ゆったりと歩ける歩道をつくり、いろんな世代の人が散歩をしてあいさつや会話ができるスペースをつくったらいいと思います。

パネラー②：

車がなくても生活しやすいまち、子育て世代は学校や病院が近くにあるまち、若者世代はカラオケや娯楽施設が近くにあるまちなど、世代によって求めているものが違います。私は、いろいろなものがひとつの場所に集まった建物を作れば、いろいろな世代のニーズに応えられるのではないかと思います。

武田先生：

みなさんが話してくれたのはローカルシティの取り組みです。歩いて暮らせるまち、例えばパリは“15 minutes city” や、メルボルンは“20 minutes city”と言われるように、歩いて

15分または20分圏内に、生活の身の回りの必要な機能が集まっている都市を目指しましょうという取り組みです。今までは機能に分化した施設、例えば高齢者のために施設、子供のための施設、買い物の施設などを車で行ける範囲に作るまちづくりをしていました。

しかしコロナ禍になってから、遠くに行くよりは、近くで身の回りの暮らしの環境がよくなるようにまちを作る動きに変わってきています。世代を超えていろいろな人が共通もっている、心地よく感じられるまちをつくるのが大切であると考えます。

★テーマ2

先生は人と人との繋がりを理想的な街の大きな特徴として考えられていると思うのですが、私にはよく分からないのです。なぜなら、私の住んでいる街では家族しか私のことを知らないのです。でもそれが心地いいのです。多分また違う街にあるこの学校で、人と人との繋がりを意識して生きているので、切りかえたいのだと思います。私のような考えの人も一定数いると思うのですが、その人たちにとって都市における人と人との繋がりは大事に、そしてある程度は構築すべきものなのでしょうか？

パネラー①：

繋がりがたくない人に繋がりを強制しなくてもいいと思います。しかし、お年寄りや子育て世代は繋がりを求めていると思います。マンションの公共スペースや地域のお祭りなど、その人たちが一歩踏み出してコミュニケーションをとることができるような場所をつくることは大切だと思います。

パネラー②：

私は、魅力的なまちを作るという観点からは、ある程度人とのかかわりが必要であると思います。よりよい街を作るためには、まず住民自身が自分たちの街のことをよく知る必要があると思います。たくさん地域の方々と触れ合うことで、街のいいところ

も、課題となることもわかって、シビックプライドが高まることにも繋がっていくと思います。私は京田辺市に12年間住んでいて、京田辺が大好きです。小学校のころに田植え体験や公園巡りなど、地元の方々と交流できる校外学習がありました。全てのひとと家族のような関係を築く必要はないと思いますが、同じところに住んでいる人との共通点を見つけて、その人を認識することが大切であると思います。

武田先生：

コミュニティには「テーマ型コミュニティ」と「支援型コミュニティ」があります。阪神大震災のときに、支援型コミュニティが残っていたから人々は助け合うことができました。特に若い人たちにとって支援型コミュニティは必要ないと思われる人もいますが、高齢者や子育て世代のように遠くに行くことが困難であったり、インターネットでつながるだけでは困る人たちがいます。その人たちにとっては「遠くの親戚より近くの他人」と言われるように、近くで助けてくれる人が必要になってくる場面があります。将来そのようなことがあることをみなさんも想像してみてください。例えばマンションのエントランスで高齢の方に声をかけてみると、彼らも喜んでくれるのではないかと思います。

★テーマ3

日本はヨーロッパの国々と比べて街づくりやシビックプライドを育むための取り組みや人々の知識が少ないと思うのですが、その違いは何から生まれていると思いますか。

パネラー①：

私は海外と日本の学校のどちらにも通った経験があります。日本では小学生のときにまち探検をしますが、自分のまちのことを学習するのは小学校までだったと思います。私がタイに住んでいるときは、小学校だけに限らず授業の中で地域のイベントが紹介されるなど、地域について話す時間があり、そのようなところに違いがあるのではと感じています。

パネラー②：

私は日本の学校と海外でインターナショナルスクールに通っていました。日本では社会科見学や職場体験などキャリアを優先した学習が多かったのですが、インターでは美術館や博物館、公園などに足を運んだり、学校周辺を歩く遠足や、芸術に触れる機会がありました。私は幼い頃からのこのような教育によって違いが生まれると思いました。

武田先生：

これは難しい質問ですが、日本は単一民族国家であることが影響しているのではないかと思います。全員同じ民族なので、国というまとまりの単位はあるけど、都市としてのまとまりを感じにくいのではないのでしょうか。また日本は（いい意味で）平和で豊かな自然があって、八百万の神と呼ばれる自然を敬う文化があるのに対して、ヨーロッパでは、もしかしたら相手は敵かもしれなくて、“自分たちの都市は自分たちで作っていかないとかない”という自負心があり、文化的な背景としてのモチベーションは日本とヨーロッパでは違うと感じます。近代化が進んだ現在は、日本も西洋の精神に学んで新しい都市づくりを重ねていくことも重要であると思います。

パネルディスカッションでは生徒たちは高齢者や子育て世代の視点にたって考え、SDGsに掲げる「だれも取り残さない持続的なまちづくり」をすすめることに意識を向けて意見を述べました。また多くの帰国子女が通う本校において、様々な国での経験談を交えて意見を交換することができ、日本だけでなく世界の国々の魅力的なまちづくりについて考える機会を得ることができました。

また、武田先生や先生の研究室生からもお話やご意見を伺うことができ、魅力的で持続可能なまちづくりについてさらに興味を深めることができました。本日は私たちのために貴重なお話をしてくださりありがとうございました。

- 本日は、ドイツ交換プログラムで本校に留学中の生徒たちも参加しました。



「いろいろな街の魅力を見つけよう！」のアクティビティに参加し、本校生徒と自分たちの住むまちについて情報交換しました。また壇上では映像を使って、現在通っているドイツの学校や住んでいるまちの紹介をし、プレゼンをしてくれました。

コロナ禍によりしばらく途絶えていた留学生との対面での交流でしたが、プログラムの再開で直接交流をすることができ、生徒たちにとって良い刺激となり、有意義な時間となりました。

2023年7月12日 SSS（高校1年生）授業「武田重昭先生講演のふりかえり」

資料：ワークシート 1-4

前回の講座では大阪公立大学の武田重昭先生の講演を聴き、パネルディスカッションを行って、シビックプライドとまちの魅力について考える貴重な機会を得ることができました。今回の講座では、講演後に1年生から提出されたコメントをいくつか紹介し、講演を振り返ります。

● 生徒のコメントより

- ・今までは、まちづくりは選挙で選ばれた権力のある大人たちが作り上げていると感じていました。でも、「街」を作り上げていくのはその地域に住んでいる人全員であって、自分もまちづくりをしていくメンバーの一員なんだという今まではなかった当事者意識を持つことができました。
- ・先生がおっしゃった「この街で生きる自分が好き」という言葉が凄く心に残っています。この言葉のような考え方で自分が住んでいる街をもっと魅力的な街にしたいなと思いました。
- ・まちづくりにはお金などを求めるのではなく、人との関わりによって精神的に満たされる幸福感が大切だという感覚を多くの人に感じてほしいなと思いました。まちづくりの根本となるのはお金で解決する施設の建設よりもその街をどう使用していくかという人の意思のほうが大事だなと思いました。
- ・今日お話を聞いて、街は人々の人生そのものといっても過言ではないほど重要な役割をはたしていて、魅力的な街というのは魅力的な人生や体験、幸せな生活に直結していることを知り、将来街づくりに関わりたいと思いました。
- ・私は海外と日本、どちらの生活も経験したことがあります。なので、両方の経験をもとに家のある街に政策を考えて提案してみるのも面白いと思いました。
- ・日本では、個人個人が周りに働きかけなければ変わらないというような当事者意識が低く、文化的な特性ではあると思いますが、先生がおっしゃっていたように現代の社会ではヨーロッパのようにそれぞれが良い街にしていくために少しずつ行動していくことが必要だと思いました。

● 後半は SSS の担当教諭より、AI を使ったコメントの分析や効果的なコメントの書き方についてのレクチャーがありました。

・谷口教諭より

生徒から寄せられたコメントを AI で分析する方法と分析によりわかったことを紹介。



分析によると、多くのコメントに「まちづくり」、「シビックプライド」、「コミュニケーション」などといった重要なキーワードがたくさん使われていることがわかる。また「心強い」、「素晴らしい」、「うれしい」などのポジティブな単語も多くみられる。このような分析方法があるということを知っておいてください。

・ 朴元教諭より

みなさんのコメントのデータ分析をうまく利用し、先生の関心事とみんなの関心事がうまくマッチングした部分が多ければ、先生の話がみんなにうまく伝わっていたことがわかります。効果的なコメントの書き方として、どこにポイントを絞って聞いたらいいか、ノートやメモを残すクセをつけるとよいです。

● 夏休みの宿題について

・ 吉田教諭より

夏休みの課題は、自分の住んでいる（住んでいた）まちの魅力、またはお友達が住んでいる（住んでいた）街の魅力を伝えるスライドを1枚作成することです。

まちが重点的に取り組んでいる政策や課題を入れて、観光案内などではなく、「住む」という視点でまちの魅力を伝えるスライドにしてください。夏休み明けに、授業でプレゼンしてもらいます。

・ 北川教諭より

スライドを作るときは、まちの魅力を発信するために、写真や図形など、視覚的なものを有効に利用しましょう。

「写真、イラスト、図などを効果的に利用し、フォントや配色を考え、『映える』作品を作ること！」



夏休みは自分たちが住んでいる（住んでいた）街や興味をもった街について見聞を広げるチャンスです。先生のレクチャーで学んだことを実践して、街の魅力を効果的に発信するスライド作成に取り組みしましょう。

2023年9月1日 SSS（高校1年生）授業「まちづくりプレゼンテーション -各クラス」

資料：ワークシート 2-1

今日は2学期のSSS講座の第1回目です。夏休みの間に海外や国内の遠方にある自宅に帰宅した生徒や近隣から通う生徒が再び一堂に介しました。今日は夏休み中に取り組んでもらった課題の「まちの魅力を伝えるスライド」を各クラスで発表してもらいます。まちの魅力を効果的に伝えることに加えて、クラスで発表をするスキルを身につけることが今日の授業の目的です。

●生徒たちのプレゼンテーション



発表後、生徒同士でプレゼンを評価し、各クラスより代表3名を選出し、後日、学年全体で発表してもらいます。

【評価のポイント】

- ◇ 地図上の位置、人口、まちの規模など基本的な情報が入っていたか。
- ◇ 情報がバランスよく組み込まれ、まちを全体として理解しイメージすることができたか。
- ◇ 今回はスライドの選考なので、スライドが良くないのに話の内容で評価を逆転させることはできない。

【あるクラスで紹介された地域】

国内

奈良県奈良市、生駒市、橿原市、東京都文京区、武蔵野市、愛知県刈谷市、大阪府大阪市、東大阪市、兵庫県西宮市、宝塚市、京都府京田辺市、石川県金沢市など

海外

ニューヨーク、プラハ、上海、北京、台北、ムンバイ、エルサレム、アムステルダム、ケアンズ、ダルトンなど

帰国生徒と国内一般生徒が混在する同志社国際らしい様々な地域の紹介となり、それぞれの生活経験を共有することができる発表となりました。スライドに使用する写真選び、配色、全体の配置などに工夫を凝らし、「住む」という視点でまちの魅力を積極的にアピールする生徒たちがとても印象的でした。またクラスに質問を投げかけて視聴者の注目を集めたり、英語で発表するなど、ひとりひとりの個性が表れたプレゼンとなりました。

2023年10月19日 SSS(高校1年生) 授業「京田辺市長の講演に向けて/まちづくりの先進事例～徳島県神山町、東京都渋谷区～」

資料：ワークシート 2-2

前回の講座では生徒ひとりひとりが「まちの魅力を伝えるスライド」を発表しました。今回の講座ではまちづくりへの理解をさらに深めていくため、私たちの学校の所在地である京田辺市の上村市長をお招きし、京田辺市のまちづくりについて講演いただきます。今日はその準備として京田辺市出身の北川教諭より京田辺について話を聞き、続いて徳島県神山町と東京都渋谷区のまちづくりの事例について話を聞きます。

● 北川教諭「京田辺市について～京田辺市長の講演に向けて」

最初に京田辺市の歴史をたどり、どのようにまちが変化していったかみていきます。

【京田辺市の人口と歴史】

- ・1906年 田辺村から田辺町が誕生
- ・1964年 東京オリンピックの年
田辺町の人口 約17,000人
- ・1980年 同志社国際高等学校創立
田辺町の人口 約40,000人
- ・1997年 京田辺市誕生 人口約50,000人
- ・2002年 三山木駅の高架化 人口約60,000人
- ・2023年 人口約74,000人 現在も人口は増加し続けている。



まだ自動改札がなかった昭和時代の三山木駅や夏に木津川の河川敷に露店が並び、多くの人が川遊びをしている様子の写真など、当時の様子がわかる写真が紹介されました。1980年代には私たちの学校や隣接する同志社大学、同志社女子大学が建設され、多くの学生がこのまちに通うようになったことが京田辺市の発展につながっていることもわかりました。先生の話聞き、私たちが通う京田辺市により親近感を感じることができたのでは

ないでしょうか。次回の京田辺市長の講演がますます楽しみです。

● 吉田教諭「まちづくりの先進事例～徳島県神山町～」

次は徳島県神山町のまちづくりについて吉田教諭から話を聞きます。大阪から高速バスで1時間半、徳島市内から車で45分の場所に位置し、人口は約5,000人で消滅可能都市のひとつとされる神山町。このまま人口減少が続くと学校の分校が廃校になり、バス等の公共交通機関の廃線、ケーブルテレビ事業の撤退、サテライトオフィスの撤退、行政業務の維持が困難になるなどの危機感が迫る中、まちを変えていこうと人々が動き、その取り組みが大変注目されているまちです。



どのようにまちづくりがスタートしたか？

神山町生まれの大南信也氏がキーパーソンとなり、2004年にNPO法人グリーンバレーを立ち上げ、「日本の田舎をステキに変える！」をミッションに神山町で新しい事業を展開したまちづくりに取り組む。

→人々を魅了し、都会から若者が次々と移住してくる！

【神山町が魅力的なまちづくりのために柱としている6つの働きかけ】

- ① すまいづくり
- ② ひとづくり：神山まるごと高等専門学校の開校など
- ③ しごとづくり：サテライトオフィスの誘致。神山塾（企業支援プロジェクト）の開催など。
- ④ 循環のしくみづくり：「フードハブ」の設立。地産地消ができる仕組み作り。農業体験、食育など。
- ⑤ 安心な暮らしづくり：神山塾による支援。
- ⑥ 関係づくり：移住してきた人とその土地に住んでいる人との関係が豊かで開かれている。神山つなぐ公社。

【新しく創造されたビジネスの事例】

えんがわオフィス/B&B/栗カフェ/靴リヒトリヒト/KAMIYAMABEER/Week 神山 他

小さいまちであっても、様々な分野においてイノベーションを起こすことにより持続可能なまちづくりが可能になることを神山町の事例から知ることができました。次は人が多く集まる東京都渋谷区の事例についてみていきます。

● 坂下教諭 「まちづくりの先進事例 ～東京都渋谷区～」



渋谷区の人口は約 24 万人と東京 23 区の中では決して多くはありませんが、渋谷駅は世界第 2 位の利用者数を誇り、多くの人が集まってくるまちです。すでにまちの開発はされていますが、老朽化が進んでいるために様々な問題を解決しようと再開発が行われています。どのように取り組みがなされているかみていきましょう。

【渋谷再開発について】

話を聞いた人：金行美佳さん（日建設計・都市計画担当）

・渋谷再開発は 100 年に 1 度といわれる大改造：

関東大震災後、各鉄道事業者が路線を増やし、継ぎ足しで駅舎を建設して混乱した動線となる。また老朽化や谷になっている渋谷駅の土地の形状による弊害、地震や災害時の備えの脆弱さなど街全体を再構築する必要性が出てくる。

・委員会の発足、公共施設と民間の力を活用：

渋谷区は個人所有の土地は少なく、多くは東急グループのものであり、協力的に再構築が可能。渋谷区役所、東急、日建設計による委員会を立ち上げ、都市計画の研究者の意見も参考にして再開発計画を進める。国や地方公共団体の事業コストを削減し、より質の高い公共サービスの提供を目指す。

・アーバンコアによる上下移動：

渋谷に集まってくる様々な人が行きたいところにストレスなく移動できるように考えられたのが、渋谷の地形（谷）を利用したアーバンコアによる上下移動ができるビルの建設である。



・宮下公園の改修：

渋谷駅の北側に位置する全長 330m の宮下公園はニューヨークのハイラインを参考にし、改修され、MIYASHITA PARK として生まれ変わる。

先日ニュースで、渋谷駅の山手線内駅改良工事をするため、列車が運休することが報道されていました。この工事は渋谷駅周辺のまちづくりの一環として快適な駅空間を確保するために行われています。

渋谷区のように、人口過密という課題を解決しながらまちづくりをすることが楽しいと思う人もいれば、神山町のような過疎地域で工夫をしながら暮らすことが楽しいと思う人もいます。ひとつの答えがあるわけではなく、様々なアプローチがあり、それぞれのまちが将来を考えて独自に取り組んでいるところがとても面白くもあります。これらの先進

事例や自分たちが調べたまちの課題や取り組みを比較検討して、私たちはいろいろな角度からまちを見て、課題を解決していくことができることを知りました。そして将来どのようなまちに住みたいのか、またどのようにまちづくりに関わっていききたいのか、これから考えていくことは大変有意義だと感じます。

【今日の課題】

これまでまちづくりについて学び、感じたことから、京田辺市長への、京田辺市の政策に関する質問を考えましょう。

2023年10月26日 SSS(高校1年) 講演 「人のつながりを重視したまちづくり」 上村崇 京田辺市長

資料：ワークシート 2-3

今日の講座は京田辺市の上村市長にお越しいただき、京田辺市のまちづくりについて直接お話を伺います。前回の講座では京田辺市の歴史とまちの発展について先生の話聞き、自分たちが通う京田辺市について関心を高めました。また事前に市長に聞く政策についての質問を準備し、今日の講演を楽しみに迎えました。



● 生徒たちによる司会進行

司会担当の生徒たちが今日の司会進行を務めます。上村市長は同志社香里高校、同志社大学のご出身です。今日は市長であり政治家の視点から、京田辺のまちづくりについてわかりやすく話をしてくださいました。

● 上村崇市長講演「人のつながりを重視したまちづくり」

京田辺市は・・・

- ・各地域で人口が減少している中、京田辺市の人口は60年連続で増加している全国的に珍しい地域。
- ・生産年齢人口は府内 No.1 で、活力のある元気なまち。
- ・京田辺市のまちづくりについては、北部、中部、南部の3つの地域に分けて各地域に必要な行政サービスを考え、進めている。
- ・鉄道が多く利便性がよいことがまちのメリットとなっており北陸新幹線新駅設置を見据え、そのインパクトを市全体の活力に生かせるようまちを発展させていく。



上村市長の取り組み ～人と人がつながり、参画できる仕掛けづくり～

- ・地域子育て支援センター「はぐはぐルーム松井山手」の開設

利便性の良い駅前商業施設を活用した子育て支援施設。

上村市長：子育ては男女関係なく関わりをもつことができます。結婚や出産が全てではないけれども、こどもの成長を見るのは非常に楽しい。こういった支援施設で男女ともに子育てを楽しんでほしい。

- ・京たなべ「玉露庵」の開設

体験型観光情報発信拠点。旅行代理店、観光協会と京田辺市が包括的な連携協定を結んで集客など積極的に取り組む。

上村市長：行政だけでなく、民間の方々との協働によって生まれるものがたくさんあります。

- ・南部まちづくりセンター「ミライロ」の開設

駅前の銀行の跡地を利用し、地域住民が気軽に集える場所、市民と協働で魅力を創出する場所として作られた施設。カフェ、交流イベントスペース、まちライブラリー（寄付された本を借りることができる）を併設。子育てママのコミュニケーションの場、放課後は地域の小学生たちの宿題スペース、ワークスペースにも利用できる。



上村市長：こどもや子育て世代、高齢者が集い、何か化学反応が起こらないか、何か新しい発想が出てくるのではないかと、という期待を込めてつくられた場所です。行政がなんでもサービスを提供するのではなく、地域の課題に市民が気づき、多くの人が集まって何ができるのか、行政にどんな働きかけをしたらいいのかなど、市民による取り組みの最初のきっかけづくりや話し合いなどをここミライロで進めており、まちづくりの大きな役割を担っています。

- ・幼保連携型認定こども園「市立大住こども園」開園

「こども園」とは、文部科学省所管の幼稚園と厚生労働省所管の保育所の両方の機能をもつ施設で、全国的に広がっている。

上村市長：京都市内のこども園は空きが出てきているが、残念ながら京田辺市では待機児童がいて、まだまだ整備が必要だと考えます。

・市民まつり「たなフェス」の開催

2022年度から始まり、多くの市民が出し物や出店をする。市長自ら実行委員として参加し、どのような出しものや発信の仕方がいいのか市民と話し合う。Youtube やインスタで情報発信をして多くの人に参加してもらうことによって、まちづくりに関わってもらう。

上村市長：たなフェスはシビックプライドを高めるための取り組みです。多くの市民と対話をし、意見を聞きながらまちづくりを進めています。市民の皆さんの声を聞き、社会全体として、行政として、支えていかないといけないと考えます。

以上のように、上村市長は市民にとって暮らしやすいまちをつくるために市民とともに様々な取り組みをされていることがわかりました。上村市長の力強いお言葉からまちづくりへの熱い思いを感じとることができました。

また、講演の中で上村市長は「オープンなまちを作っていきたい」と話され、京田辺市とインドの交流促進の話をしてくださり、「様々な国の人と交流をして市民のみなさんといいまちを作っていきたい。特に同志社国際のみなさんのように多様なバックボーンのある方たちがまちづくりに参加してくれるとうれしい」と私たちにメッセージをおくってくださいました。私たちひとりひとりがどのようにまちづくりに関わっていけるか、改めて考えるチャンスとなりました。

【 市長への質問 】

講演の後半、上村市長は生徒たちが事前に準備をした質問に答えてくださいました。また、当日にもたくさんの挙手があり、ひとりひとりの質問に丁寧に答えてくださいました。その一部をご紹介します。

Q1. 第4次京田辺市総合計画のなかで、SDGsの視点を最大限に活かしたまちづくりをすると書かれていましたが、具体的にはどのような政策のもとどのような計画や活動が進められているのですか？そして、私たちが通う学校がある京田辺市を良くしたいと思うので、私たちにもできることや、心がけておいてほしいことはありますか？



A. 私がSDGsの項目のなかで一番大切にしないといけないのは多様性だと思っています。多くの人がこのまちに集い交流することによって多くの化学反応が起こる。そのことがまちの発展に必ずつながっていくと思っているので、多様性をどう求めていくかが大変重要だと思っています。まちづくりは住民ひとりひとりがプレーヤーです。ひとり

ひとりがやれることをやってまちが発展していくと考えています。京田辺市は都心で働いて帰ってくる人が多い場所です。日々の暮らしの中での気づきを行動に変えていける市民の方々がどれだけ増えていただけるかが、まちの価値を高めるための大きな課題だと考えています。その解決策としてまちづくりセンターをつくったということがあります。

Q2. 駅周辺以外のまちづくり、例えば高齢者の交通手段や地域の足として具体的にどのような対策がとられていますか。

A. 京田辺市には40以上の区・自治会があり、全国的にもめずらしくすべての区・自治会にバス路線網があります。しかしバス路線の維持が難しいことが課題です。政府の動向が気になるところでありますが、もしライドシェアを積極的に進められたら、交通困難地域の解決策になるのではと思います。これからのまちづくりの中で議論を進めていきたいと考えます。

Q3. もし北陸新幹線が京田辺市に開通したら市にアドバンテージがたくさんあると思いますが、それを最大限生かすためにどのような政策をとろうと思っていますか。

A. もし新幹線が開通したら、松井山手駅では次の時代に即した整備やまちづくりのやり直しが必要だと思っています。海外では、ある方がそのまちを離れても、その家に次の方が住む文化によってまちが継続していきますが、日本ではあるところに住宅地を作っても次の世代の人はそこに住まず高齢化がすすみ、まちがゴーストタウン化するという事例が数多くあります。そこでわたしたちは、まちを継続させていくためにまちのredesignやrebuildをすることによって魅力を高めて発展させ、持続可能性を模索していきたいと考えます。

新幹線が来ることが目的なのではなく、まちづくりのひとつのツールとして新幹線を活用できたらと思っています。それが市民にとってのベネフィットにつながると考えます。

次々と質問の手が挙がり、生徒たちのまちづくりへの関心の高さがうかがえました。今回の講演は普段の授業では体験できない、豊かな学びの時間となりました。大変お忙しい中、今日はこのような機会を作ってください本当にありがとうございました。

【生徒たちの感想より】

・本日は貴重なお時間を私達のために割いていただき、ありがとうございました。市長さんの講演で、また新たなものの捉え方や知識を得ることができました。ミライロや交通の利便性についてのお話はもちろんですが、私が特に印象に残ったものは、行政を中心に据えた

考え方ではなく、市民の交流があってこそそのまちづくりや政策や、些細なきっかけから起きる化学反応に期待する姿勢です。観光面ではあまり知られていないまちながらも、京田辺市のお茶を飲める玉露庵など、きっかけづくりともいえる施設を建設するといった政策は私にとってとても新鮮でした。また、講演のはじめに市長がおっしゃっていた「情報は自ら取りに行かないとなにもない」というお言葉が心に残りました。本当にありがとうございました。

・今日の京田辺市長の上村さんの話を聞いて、個人的に一番印象に残ったフレーズが、「行政は、市民の痒いところに手を届かすものではなく、ローカルに発生した問題を市民が発見し、行政と協力することで解決を図るのだ」というものでした。このフレーズは、僕のまちづくりに対する考え方を大きく変えました。元々僕は、まちづくりに関して、市民が、「こうしてほしい」という要望を行政府に提出し、行政府がそれに答えるという形態を想像していました。ですが、実際の職務の話をもとにして、行政の第一人役を市民が担うことが大切だと気付かされました。よく考えれば当たり前のことだけれど、いざ僕が自分の地元になにか貢献しているのかと問いかけると、なかなか Yes とは言い難いです。今日の講演を聞いて、少しずつ、自分の市の取り組みに興味を持つことができました。

2023年10月26日 SSS(高校1年) 授業「まちづくりプレゼンテーション ークラス代表」

資料：ワークシート 2-3

市長の講演に続き、今日は投票により選ばれた代表生徒の「まちの魅力を伝えるスライド」を発表してもらいます。生徒たちは、まちの魅力を発信するために、スライドを作る際にどのようなことを工夫したか、また、どのようにして発信をすれば他の生徒たちの心をつかむことができるかということも合わせて説明しました。



ここでは発表されたスライドの一部をご紹介します：

● A組代表 [京田辺市]



- ・京田辺市の本当の魅力は観光面ではなくて「住む」という面にあると思うので、「住みやすいまち」という見方でまちを紹介できるようにスライドを作った。
- ・都心部へのアクセスの良さや住むために必要な施設の充実について写真を入れてわかりやすく説明した。

●B 組代表 [葛城市]

- ・安心して子育てができるまちを伝えたかったので、犯罪率の低さや医療制度が全国1位の情報を入れた。
- ・インスタで情報発信や市民と交流をするなど、生活に寄り添ってくれる市長の存在をアピール。クイズ形式で印象に残るようにプレゼンテーションをした。



●C 組代表 [生駒市]



- ・まちの魅力伝えるために、市の広報誌のようなデザインのスライドにし、市のキャッチフレーズも入れて、実際の広報誌みたいになるように工夫した。
- ・シンプルで見やすいフォントにして、情報量が多くてもわかりやすくなるように心がけた。

●D 組代表 [Dubai Marina]

- ・世界1位のものが大好きなまちで、「高級感」、「近代都市」や「近未来感」を伝えるためスライドの背景、枠や文字の色を統一し、一目でわかりやすいライドにした。また、写真の形は五角形やとがった形にすることによって、より印象に残るようにした。
- ・まちの場所がすぐわかるように地球儀を載せてピンで表示し、わかりやすくした。



●E 組代表 [Auckland]



- ・海の美しさをアピールするために、スライドの背景を海の画像にした。
- ・人口が多く、自然がないイメージを払拭するためにビーチやそこから見える火山の写真を入れて、まちの魅力を説明。

●F 組代表 [Hamburg]

- ・都市再開発が進行中の「ハーフェンシティ」を紹介。どのような再開発が行われているかを数字データでわかりやすく説明。
- ・ペット殺処分ゼロや犬税などのペット政策や、ペットとの移動などの説明を入れて、ペットにやさしいまちづくりをしているまちの魅力をアピール。



【発表を終えて】

元気な声で「こんにちは！」とスタートして視聴者の注目を集める生徒、クイズ形式で興味をひく生徒など、スライドの内容や発表の仕方にそれぞれ個性がありました。国際らしさを感じる様々なまちについての発表となり、発表者自身はその地域に住み、育った経験から地元出身者ならではの情報が満載で楽しく視聴することができました。また発表者自身も自分のまちについて調べ、それを人に伝えることによって普段はあまり意識をしていない自分のまちへのシビックプライドに気付き、魅力を再発見することにつながったようです。

2023年12月4日 SSS(高校1年生) 授業「まちづくりの先進事例 その2～富山市、コペンハーゲン、フライブルグ～」

資料：ワークシート 2-4

これまでの講座で人口が少ない徳島県神山町と人口が多い東京都渋谷区のまちづくりの事例について話を聞きました。今日はまちづくりの先進事例の第二弾として、実際に先生方が視察訪問した人口規模では中核都市の富山市、デンマークのコペンハーゲン、そしてドイツのフライブルクのまちづくりについて話を聞きます。

● 北川教諭 ～富山市のまちづくり～

富山市・・・人口約42万人の中核都市。約10年前をピークに人口は減少している。

【コンパクトなまちづくり】

人口のドーナツ化現象が起き、人口減少によって郊外のインフラ等を維持、管理していくことが難しくなっていく。

→「公共交通機関を軸としたコンパクトなまちづくり」を推進し、2006年



LRT(次世代型路面電車システム)を日本で初めて導入した。

【“AMAZING TOYAMA”プロジェクト】



市民ひとりひとりが富山に愛着と誇りを抱く「シビック・プライド」を醸成するために考えられたキャッチフレーズ“AMAZING TOYAMA”。ポスターやパンフレット、車のナンバープレートのデザイン等に使用したり、市内各所にモニュメントを配置して住民のシビックプライドを高めている。

(写真は富山市ホームページより)

【森雅志前富山市長の取り組み】

富山市のまちづくりの仕掛け人は、2002年より約20年間市長をしていた森前富山市長。人口減少が続く中、郊外へ人口がこれ以上拡散することなく、中心に人が集まるように、車社会から公共交通機関を使った暮らしにシフトするなど、将来の市民のために今、やらなければならないことに取り組む。

その他にサイクル・シェアのシステムや、まちの中で花束を買って電車に乗ると無料になるなど、「私も住みたい」といってもらえるまちづくりに取り組んでいる。

● 帖佐教諭 ～デンマーク・コペンハーゲンのまちづくり～

コペンハーゲン・・・人口約80万人で、本土は九州と同程度の広さ。

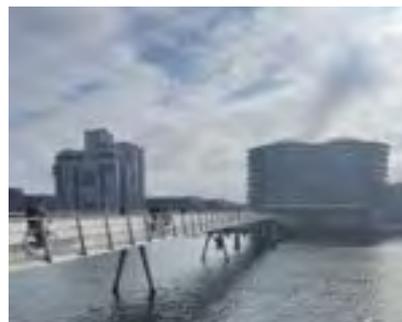
“ヒュッゲ”・・・デンマーク語で心地よい時間、不安がない、ひとりでも楽しめるなどの意味がある言葉で、デンマーク人はこの言葉を大切にしている。それが暮らしにもあらわれている。



【グリーンモビリティ】

自転車政策と公共交通機関の充実。

車道を狭くして、自転車の専用道路や高速道路をつくるなど、自転車中心の交通を整備している。メトロは24時間自動運転し、高齢者や障害者など自転車に乗れない人たちのための公共交通機関の充実を図っている。



「快適に安価で移動できることが全ての人の権利である」という考え方。また環境にもやさしく、市民の健康維持にも役立ち、経済効果にもつながっている。

【その他の取り組み】

- ・ アブサロン教会－民間企業が使われていない教会を改装し、卓球を楽しんだり、知らない人同士が集まって一緒に食事ができたりする公共の空間。
- ・ グスタグロ農園－都市型・屋上農園をつくり、そこでとれた野菜等を使ったレストランも経営。市民のボランティアも多数参加している。
- ・ コペンヒル－多くの人が敬遠するごみ処理場の上にスキー場やカフェなどの娯楽施設を作る。コペンヒルからは、洋上風力発電が、市民の出資で行われている様子を見ることができる。

デンマーク全体では、すべての人が豊かに暮らし、平等を重視した政策や取り組みがなされている。住民のシビックプライドを高め、「不安も不満もない」と言えるまちづくりを実現している。

● 坂下教諭 ～ドイツ・フライブルクのまちづくり～

フライブルク・・・人口は23万人の小さいまち。フランスとの国境は近いところで約3キロ。堂安選手が所属するSCフライブルクのスタジアムがあり、学生が多い、アカデミックなまちでもある。



話を聞いた人：環境ジャーナリストでもあり翻訳家の今泉みねこさん（フライブルグ在住30年）

【交通対策】



- ・ レギオカルテという地域環境定期券を導入。フライブルクと近郊の鉄道、トラム、バスが乗り放題になる定期券で、車に乗らなくても移動ができる生活を可能にしている。
- ・ Park & Ride まちの中心部に車を乗り入れないために校外の駅などに無料の大型駐車場があり、そこから電車でまちの中心部に向かうしくみ。結果的にまちの中心部での歩行者が増え、

商店が活性化する。

- ・自転車専用通路の整備。

【廃棄物政策】

ゴミの削減とリサイクルの推進を目的とした仕組みづくりができています：

- ・市からゴミ箱を有料で借りてゴミを捨てる。大きいゴミ箱よりも小さいゴミ箱を選ぶことでゴミの量を削減することができる。
- ・ペットボトルやビン、缶などはデポジット制を導入して、回収が促進されている。

【エネルギー対策】

- ・1970年代、酸性雨によって森が枯れ、原子力発電所建設の計画が持ち上がったことからその反対運動が起こり、環境保全や自然エネルギー推進の動きが活発化する。
- ・地域熱供給、コジェネレーションのシステム、マイスターランプの配布など
- ・フライブルクは総合的な環境首都と言われる。

フライブルクでは様々な工夫が組み合わさっていて、意識せずに行動ができるようにシステムが作られている。がんばってやる、というよりは自然と行動ができるような仕組みが整っている。

これらのまちづくりの事例より、どのまちも公共交通機関を中心とした生活を基盤にして、人や環境にやさしい暮らしを無理なく可能にする政策や仕組みが整っていることがわかります。私たちがより豊かに暮らしていくために、どのような政策や仕組みがあればよいのか、これらの事例から考え学ぶことができました。

【課題】

2 学期は京田辺市長より京田辺市のまちづくりについて直接お話を伺うことができました。また国内やヨーロッパなどでの持続可能なまちづくりの先進事例について学びました。これらを踏まえて3 学期には京田辺市への政策提案を行います。以下の7つのグループに分かれて最終的には生徒たちの考えた政策案を実際に京田辺市に提案することを目指します！

1. 少子高齢化に対する対策
2. 中心市街地の活性化
3. 交通政策
4. 公共施設やパブリックスペースの活用
5. 農業、観光業、その他産業の創出等
6. シビックプライドを高める政策
7. 多様な市民のつながりを育む政策

2024年1月9日 SSS(高校1年生) 授業「京田辺市への政策提案」

資料：ワークシート 3-1

3学期に入り、SSS 講座も残りわずかとなりました。これまでの講座を通じて生徒たちはあらゆる視点からまちづくりについて考えることができるようになりました。3学期はまとめとして実際に京田辺市に政策を提案することを目標に講座を進めます。早速今日の講座では「政策とは何か？」について話を聞き、続いて各クラスで政策課題の提案、発表に向けて意見交換をしていきます。

● 帖佐教諭 ～行政手法の考え方～

【政策とは？】

課題解決のための手段のことをいい、特に公共課題を解決するために立案される政策を公共政策という。

【公共政策の階層性】

政策 (Policy)、施策 (Program)、事業 (Project)

【公共政策】

「目的」と「手段」で構成され、手段のことを行政手段という。

行政手段 ; 規制的手段「～禁止」「～には許可が必要」など

非規制的手段 ; 「ごみを出す場合は自治体からごみ袋を買う必要がある」など

税金や利用料の徴収、補助金を出すなど経済的手法



京田辺市に政策提案をする際のアドバイス :

- ・ 効果や実現のしやすさなども考慮しながら、何より自分たちが「こういう政策が実施されれば嬉しい」と思うような取り組みを自由に考えてみる。
- ・ 規制ばかりだと苦しくなるが、自由にするとやらない人が出てくる。そのバランスをどうするか、高齢者や子育て世代、こどもの立場などから考える。
- ・ 国レベルで決める内容や地方だけでは進めることが難しいものではなく、地方自治体でできるようなことがよい。

● まちの課題と政策案

後半は各クラスでグループに分かれて冬休み中に取り組んだ課題について話し合います。

【政策提案をするグループ】

1. 少子高齢化対策
2. 市街地の活性化
3. 交通政策
4. 公共施設やパブリックスペースの活用
5. 農業、観光業、その他産業の創出等
6. シビックプライドを高める政策
7. 多様な市民の繋がりを育む政策

【グループワーク】

1. メンバーが考えた課題をワークシートに書く
2. 「京田辺市が抱えている問題」や「その問題の解決のためにすでに取り組んでいる政策など」についてグループ内でシェアする。
3. 課題について「自分が提案したい政策と予想される効果」または「他の都市が行っている政策と効果」をシェアする。
4. 上でシェアした解決策について、効果や実現の可能性、やってみたいかと思うかなどについて自由に話し合っ、メモをする。
5. グループ内で役割分担をする。



これから政策提案をするために、京田辺市のウェブサイトや SNS で発信される情報を調べ、グループで活発に意見交換をする生徒が多く見られました。次回の講座ではクラス内でグループ毎にプレゼンテーションをしてもらいます。それまでに以下の課題をまとめて提出しましょう。

- 1) 政策案の基本的な内容（注目している問題点、政策の目標、政策の内容、政策の手段）
- 2) プレゼンテーションの原稿とスライド

生徒たちが考えた政策案を実際に京田辺市に提案することを目指します！

2024年2月8日 SSS(高校1年生) 授業「京田辺市への政策提案 ークラス内発表」

資料：ワークシート 3-2

前回の講座では京田辺市へ政策提案をするためにグループで話し合い、発表の準備をしてきました。今日はグループごとに発表内容を仕上げ、クラス内で発表します。

発表する際にはグループ内でお互いの意見を尊重し、思いやりをもって行動することや、発表における言葉の選び方や表現の仕方に気を配ることが大切です。また政策の提案内容については、問題点が明確になっているか、提案に対する具体的な手段や効果



はどのようなものか、などを意識することも重要です。これらを踏まえて、生徒たちがどのような政策提案を発表してくれるか楽しみです。

● クラス内発表の前に



生徒たちはチームごとに発表内容の最終的な調整、見直しをし、発表練習に集中して取り組みました。先生にアドバイスをもらって具体的な課題を見直すチーム、発表内容が仕上がりタイムを計って発表練習をするチーム、絶えず話し声が聞こえるチーム、もくもくと真剣に準備をするチームと、様々な取り組み方が見られました。発表はスライドを使い、それぞれのチームで役割分担をして3分以内で課題の提起から政策の

提案内容まで説明をします。

● 発表の評価ポイント

生徒たちの手元には評価シートがあり、それぞれのチームの発表を聞き、評価の観点を考慮してメモを取ります。最後には、全体の評価を振り返り、総合的にクラス代表としてふさわしい政策案をひとりひとりが決定して提出します。



評価項目：

実現性・実用性/費用対効果（効果・コスト）/独自性（独創的・画期的）/公平性・平等/将来性（持続性・維持性）

● 発表 — 6クラスのうち、ここではD組の発表をご紹介します。



【シビックプライドを高める政策】

市民のシビックプライドを高めるために、市民が誇れる話題性のあるイベントを開催することを提案。事例として島根県出雲市のまちづくり人生ゲーム、東京都港区で取り組まれているシティプロモーションを紹介。住民のニーズに合った政策を実行できるよう、前もって

政策プランを SNS で宣伝し、良い反応があった政策だけを実行する。

【多様な市民のつながりを育む政策】

公共スペースでの人の集まりは同年代に偏る傾向がある問題やコロナ禍によって市民同士のつながりが希薄になっている問題を解決するために、週末の猫の手政策を提案。週末に市民が集まってゴミ拾いをしたり、南部まちづくりセンターなど既存の公共スペースで幅広い年代が集まって交流できる場を作り、多様な市民同士のつながりを構築していく。

【公共施設やパブリックスペースの活用】

地域の住民、世代を越えた人たちの交流が少なく、公共施設の利用も少ないことを課題とし、地域単位の交流を増やし、体育館などの公共スペースやテントなどの備品を簡単に借りやすくすることを提案。また公園でお祭りを開催し、若者の参加率を上げ、世代を越えた交流の場を作る。イベントを知らせる方法として LINE を活用。高齢者もスマートフォンが使えるようスマートフォンの教室を開く。

【交通政策】

路線バス利用者およびバス運転者が減少傾向にあり、バスを利用したい人が利用できなくなるという問題に着目し、将来も安心できる利用者や運転手の母数の確保を目標とした政策を提案。利用者を増やすための政策として、長野県木曾町の事例を紹介。またバス運転手を増やすため、路線バス会社と京田辺市が連携して、大型二種免許取得支援制度の導入を提案。バス運転手という職業が若者の未来の選択肢となるようにする。

【中心市街地の活性化】

京田辺市は立地が良く、利便性や他県へのアクセスは優れているが、市内において人が集まりにくい状況にあることを課題とし、市民が集まりやすい環境を整備し、経済の活性化と地域の発展を期待できる政策を提案する。具体的には空き地を利用したパブリックスペースの拡充や市民公募の団体の設立である。パブリックスペースの事例としてアメリカ、ニューヨークのマジソンスクエアパーク、市民公募の取り組みは長野県塩尻市の事例を紹介。

【少子高齢化に対する対策】

生産人口が減り、年齢階層別人口のバランスが崩れて私たちに大きな負担が出てくることを課題にし、生産人口を増やし、出生率を上げるために安心して子育てができる環境づくりを提案。具体的には子どもが多い家庭や経済的に厳しい家庭、保育園や幼稚園に子育てグッズ（リサイクル）を配布すること、親子で楽しめるイベントを開催して、子育てグッズを取りやすくすること。また学童などの子供を預けられる場所を増やす。

【農業、観光業、その他産業の創出等】

観光資源や観光者数が少ないことや農地が狭い、人手が足りない、宿が少ないことを課題とし、地域と連携して、人を惹きつける観光地を作ることを提案。事例として金沢21世紀美術館の市と連携したまちあるき政策、奈良県吉野町の森林セラピーの効果を活かした観光政策を紹介。またウェブプロモーションなどのインターネットを通じて京田辺市の魅力を発信することを提案する。



● 発表を終えて

【帖佐教諭のコメント】

発表ではみんなが真摯に課題に取り組んでいる様子が見られました。準備をする段階から、人の気持ちを考えた行動、気配りができていました。また、問題の提起から論理的に展開されていて、しっかりと考えられていたプレゼンでした。聞いている人もしっかりと聞き、プレゼンをする人も将来仕事で自信をもって話せるぐらい、上手に発表ができていて、とてもいい発表だったと思います。

【谷口教諭のコメント】

発表を見て、京田辺市を良くするために当事者意識をもって取り組んでいたことが良かったと思います。京田辺市の現状や背景について調べ、真剣に考え、意見を出していたことに感心しました。一方で当事者意識を持っていない人も見受けられたので、発表する人も聞く人も、当事者意識を持つようにしましょう。また、発表の制限時間を大幅にオーバーするチームもありました。これからは時間を守って良いプレゼンテーションをしてもらいたいと思います。

● これからの予定

評価シートを集計後、クラス代表のチームを決めます。代表になったチームは、生徒たちからの意見を参考にプレゼン内容をブラッシュアップして来月の全体発表に挑みます。全体発表には京田辺市役所市民参画課の職員がお越しになる予定で、提案発表を直接聴いていただく大変貴重な機会となります。もしかしたら提案内容が実現するようなことにつながるかもしれません！代表チームは気を引き締めて、次の発表に向けて準備をしてもらいたいと思います。

2024年3月7日 SSS(高校1年生) 授業「京田辺市への政策提案 ー全体発表」

資料：ワークシート 3-3

いよいよ1年生最後のSSS講座です。今日は大学の講義室を借りて学年全体が集まり、前回の授業で選ばれた各クラスの代表チームが京田辺市への政策提案のプレゼンテーションをします。

今回は京田辺市役所市民参画課の職員2名にもお越しいただき、政策提案を実際に聞いていただくという大変貴重な機会を得ることができました。



● 代表チームによる政策提案の発表

【A組 京田辺市 観光業についての政策】



京田辺市には一休寺や観音寺などの有名な観光地があるが、知名度が低いという問題に注目し、京田辺市独自の観光情報発信アプリを作る政策を提案。観光情報の掲載、観光スポットで楽しめるバーチャルスタンプラリー、観光スポットの歴史や見所の説明を聞ける機能等を盛り込む。アプリを市民へ広める手段やアプリの利用を持続可能にするための説明まで、政策を実行可能にするための説得力のある発表でした。

【B組 未来への拠点。京田辺】

京田辺市に既にある公共施設を有効利用するための政策案を紹介。①オンラインアンケート等で意見を集め、若者のまちづくりに対するアイデアを活用する ②リノベーションにより古民家民泊を作るなど、老朽化した建物の活用 ③京田辺市の多くの公園を活用したマルシェなどのイベントの開催。運営や管理を民間に委託することにより経費削減を提案しました。チームメンバーが一体となって発表に取り組む様子が印象的でした。



【C組 交通政策】



路線バスの利用者減少やサービスの水準が低いことに注目し、利用者への情報とサービスの提供を主な機能としたソフトウェア開発を提案。アプリを使ったバスに関する情報の入手、定期券発行、ポイント付与や無料乗車券を発行など、あらゆるサービスを向上させる。アプリを使えない利用者へは電光掲示板やモニターを設置するなどして対応する。パワーポイントの視覚効果をうまく取り入れて、提案の実現性や将来性

についてもわかりやすく説明されていました。

【D組 シビックプライドを高める政策】

市民のシビックプライドを高めるために、市民が誇れる話題性のあるイベントを開催することを提案。事例として島根県出雲市のまちづくり人生ゲーム、東京都港区で取り組まれているシティプロモーションを紹介。また失敗事例も紹介し、より住民のニーズに合った政策プランを実行できるよう、京田辺市の既存のSNSを活用して宣伝し、良い反応があった政策だけを実行することを提案。より効果のある政策を意識した提案でした。



【E組 京田辺市の交通政策～バスの自動化～】



バスの利用者減少による運賃上昇、運転手不足、バス会社の収益悪化という悪循環を問題とし、バスを使い公共交通機関を利用しやすくすること、利用者の増加によるまちの活性化を目標として、バスの自動化を導入することを提案。事例としてソフトバンクが開発した自動運転バス、NAVYA ARMAを紹介。自動運転バスの安全性能の紹介や導入する場合の初期費用や経済効果などについて具体的な数字を用いて説明し、

まちの活性化や新たな雇用の創出、人件費の削減など、様々な効果が期待できる提案でした。

【F組 公共施設の利用に関する政策提案】



余暇を活用することができる施設やイベントが少ないことから特に若年層に充実感や交流の機会を提供し、地域全体を活性化することを目標に、既存のイベント「たなフェス」をリニューアルすることを提案。持続性、環境への配慮、最低限のコストを意識しながら、イベントの頻度を増やしたり、イルミネーションやゲームコーナーを置き、運営は学生ボランティアを活用するなど、多くの若者にとって魅力的な内容を盛り込んだ、ワクワクさせてくれる内容の提案でした。

発表後、京田辺市役所よりお越しいただいた職員お二人から講評をいただきました。

○市民参画課 旗生様より：

観光業、公共交通、シビックプライドなどのテーマは京田辺市が課題としている部分でもあり、また京田辺市は2030年以降、人口が減少し、今後対策を打っていかないといけない課題が挙げられ、とても興味深い意見やアイデアがあったとコメントをいただきました。また生産年齢人口が下がっている我が国で、国力を維持するために外国人労働者を多く受け入れており、これから多くの在住外国人と



共生していくことが求められている中で、帰国生徒が多く、様々な環境で育ち、様々な考え方や価値観を持っている私たちに新しい日本を築いていく役割を担ってほしいとお話いただきました。

○市民参画課 日下課長より：

自分たちが市民団体やNPO、NGOなどを作り、みんなで意見を出し合い自分たちの力でそれを進め、考えていくことはとても素晴らしいこと、と私たちの政策提案について関心を寄せてくださいました。また私たちが将来、行政機関で働いたり、自分が考えた政策を行政機関に実施してもらいたいと考えたときに、税金を使う場合は絶対にそれをやらないとといけない「理由」が要求されることを教えてくださいました。行政には基本的には失敗が許されず、予定していた結果を出さなければならない、という職員の方々のご苦勞についてもお話いただき、私たちがこれから政策を考えるにあたって、さらにもう一步深く考えることが大切であることを学ぶことができました。

【坂下教諭のコメント】

SSS 講座は、アカデミック・スキルズ、まちづくりについて一通り学び、最後は政策を提言するという 1 年の流れでした。私たちは授業を受けてから一歩進んで社会に目を向けてみましたが、実際に行政を行うこととの間にはギャップがあり、それをどのように埋めていくかをみなさんはこれから高校、大学、社会人になって非常に勉強になるところです。今回の発表ではその一歩を踏むことができ、行政の方にもこのようなギャップがあることを考えるきっかけになったと思います。

発表はどのクラスの提案も個性があり、プレゼンテーションもとても上達していました。発表の仕方や結果だけに注目するのではなく、どのようにしてそこにたどり着いたかという過程をみることも大切です。今回は慣れない大学の教室で市役所の方が聞きに来られて緊張した様子もありましたが、実際に政策を実行している職員の方に自分たちの提案を聞いていただくという大変貴重な経験をすることができました。最後に講評をいただき、実際に行政が取り組むとなればどれくらい大変なことか、課題の解決は容易ではないことはよくわかったはずです。正解は 1 つではないこと、さまざまな意見を聞くことの大切さも学ぶことができました。

●SSS で学んだことの振り返り

SSS 講座の最後の課題はこの 1 年間で学んだことをミニレポートにまとめることです。知識・内容、アカデミック・スキルズ、社会との関わりの 3 つの観点から先生の話の聞き、ミニレポートにまとめてください。

【知識・内容について】

○ 吉田教諭

SSS 講座では、みなさんがこれから生きていくうえで、まちづくりについて大事な視点を身に付けてもらったと思います。私は滋賀県の湖南市で育ち、湖南市で親の介護サービスを受けてから湖南市は良いまちなんじゃないか、と感じ、様々な視点からまちを見ることができるようになりました。まちづくりについて、シビックプライド、パブリックスペース、禁止ばかりではない看板など、いろんなことをこれまでの講義で学びました。また少子高齢化はこれから必ず直面する問題です。今回学んだことを始点にして、どこに住むか、そのまちに積極的に関わっていくことの大切さを知っておいてほしいと思います。

○ 朴元教諭

私は、私たちが社会的弱者の人たちにどのように目を注いでいくか、ということに目を向けています。生徒のみなさんが政策の提案をしてくれましたが、必ず漏れてしまう人たちが

いるのです。その人たちにどのように私たちが手をさしのべていくのか。本当に困っている人は身近にいます。私たちには何ができるか、どうしたらいいのか。いろいろな視点をもってまちづくりとは何か、考えてほしいと思います。

【アカデミック・スキルズについて】

○ 谷口教諭

まちづくりをテーマとして学んできた中でみんなのまちの見方も変わってきたと思います。自分の興味、関心あるところがあれば、まちを歩いていても見える景色が変わってくるし、他の勉強を通していろんなところに意識を向けてもらいたいと思います。また、学校の授業を通して学び方というものを学んでもらえたら嬉しいです。今日のプレゼンテーションやスライドのクオリティなどは、社会に通用するものもあるぐらい上手にできていました。何かすばらしいものを見たときに、「自分ではできない」と思ってあきらめるのではなく、自分もそれを取り入れて、「まねる」ことをしてみてください。

○坂下教諭

アカデミック・スキルズの振り返りとして、問題に対する解決は、思い付きやひらめきではできません。また説得力が必要になります。SSSの講座では、講演の聞き方、良い質問の仕方、よい感想の伝え方、スライドやポスターの作成のコツ、探究・研究の流れについて学んできました。探究の流れの中で問題の分析をする際にはMECE (Mutually Exclusive Collectively Exhaustive)、すなわち「もれなくダブリなく」を意識することが大切です。つまり、政策について考えるときに、「含まれていない要素を作らない」と「重なっている要素を作らない」ことが大切です。問題の分析から発表までの知的な活動のプロセスは、大学での研究やその先にもつながっていくものです。これからも考え方や取り組み方の方法を学ぶことを大切にしてほしいと思います。

【社会との関わり】

○北川教諭

今年で私は京田辺に60年住んでいます。私の父親は91歳でようやく免許を返納しました。京田辺は車がないと不便なまちです。車に乗れなくなると買い物などの日常生活が困難になります。さきほど「もれなく」という話がありましたが、「もれなく」市民が良好に生活しやすいまちづくりをすること、若い人はお年寄りの立場を考えにくいですが、そういう視点も大事です。もうひとつはグループワークの大切さです。グループワークは周りの意見を聞くことができ、自分が考えもしなかった意見が出てくることもある。グループワークで答えのない課題に対応する力も身に付けてほしいと思います。みなさんが将来どのような仕事につくかわかりませんが、まちづくりは誰もがそこに住んでいる人は参加できます。まちづくりをする仕事につかなくても、SSSで得たものはこれから生きていくと思います。

○帖佐教諭

みんなのプレゼンも良かったですし、市役所の方の講評を聞いたこともよかったと思っています。いただいた意見に対して、一步引いて「ではどうしたらよいか」と考えることが大事だと思います。自分と違う立場や考えの人の意見を聞いて、それを取り入れていくのはこの学校の生徒は得意なはずです。ぜひ頑張ってもらいたいと思います。また行政は失敗を許されない、という話を聞いて、「大変そうだな」と思いましたが、税金を払っている側からするとそのようにしてくださっていることは安心感があります。その一方で、「失敗しても、次はこうしたらいいかな」と考えられる社会を作っていくという考え方もできるかもしれません。それも含めてみんなが社会を作っていくということなのではないかと思うので、失敗が起こった時には、どういうプロセスでそういうことが起こったのか、ということ冷静に考えられる人であれたらいいと思います。

生徒のミニレポートより：

吉田先生が言っていたどこかの場所に行ったとき、物事の視点が変わったと言っていました。その話を聞いて、僕も外国などによく行くのですが、たしかに僕もその文化や、どのような国なのかと言うのを見るようになりました。まちづくりをするには自分とは違う意見を持っている人の事も受け入れて、違う視点で、物事を考えて広く、考える必要があると思います。

アカデミック・スキル。これは聴く能力、話す能力、見て変える能力、のことです。これらはスピーチなど自分の意思を伝えるときに役立ちます。元から素質があって持っている人もいますが、ないからって諦めないでください。これらの力は自分で育てていけるのです。自分の身の回りをしっかりと見て、人の行動を見て変えていけると思います。

私たちは若者世代であるからこそ、自分たちの世代のことに目を向けがちで例えば、スマートフォンを活用した政策などである。しかし今日本は少子高齢化社会であるこれからより深刻すると考えられているので若者世代にばかりフォーカスを当ててられない、私達と違う立場の相手のことを考える機会をもっと増やすべきだと思います。

I think the overarching theme for this years SSS classes was how teamwork can be beneficial to creativity and generating ideas. This can be seen through the classes we had but also our presentations. We had to cooperate as a group to come up with a suitable resolution for an issue that is affecting the city of Kyotanabe. Working as a group meant we had more brains to work together on one thing and was very helpful.

SSS の授業を通して、どの視点から質問すればよいか、探究の手順、スライドの作成など将来(これから)使える技術をたくさん教えてもらった。特に質問の仕方は SSS の授業の初めの方から言われており、それ以外にも人との接し方など、人間性の部分でも多くのことを教えてもらった。1 番最初の課題の自分の街を紹介するというものではどのように調べてスライドを作成すればいいのかあまりわからなかったが、SSS 授業を通して、今では自信を持ってできるようになったと言える。

【終わりに】

1 年間 SSS 講座を受講して、まちを見る視点が変わったり、私たちが住んでいるまちで自分にできることがないかな、と考える機会をもてるようになりました。またグループで意見を交換して発表し、レポートを書くなどのアカデミックスキルを習得することもできました。みなさんが実際にまちづくりに関わって生きていくための大きな一歩を踏み出せたと思います。1 年間、お疲れ様でした！

